

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2874002229		
法人名	妻鹿興商株式会社		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	兵庫県姫路市白浜町甲402番地 (電話) 079-246-0888		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年8月4日

【情報提供票より】(平成21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算	13.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		1ヶ月 30,000円

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7	要介護2	6		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.4歳	最低	69歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	貴志内科クリニック、ごとう歯科医院
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな落ち着いた環境で、灘のけんか祭りで有名な松原神社がすぐ近くであり、毎日散歩に出かけ参拝されている。ホームから数メートル離れた位置に同一法人による小規模多機能ホームが併設されており、お互い交流を持ち、行事や地域交流を図っている。管理者・職員共に開設以来の理念に基づいた考えで、入居者が元気にいきいきと過ごしてもらえるよう配慮してケアにあたっている。ホーム内は天窓や採光を工夫し、各居室や居間は陽だまりができて明るく暖かい雰囲気である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の評価で得た課題を検討し、できることから取り組み、改善に努めている。職員のレベル向上のため、各種委員会の設置や栄養バランスの工夫、水分補給を個別計画に入れたり、すぐ実践につなげている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価については、管理者と計画作成担当者として作成し、職員は目を通すようにしている。現場の意見が少なく、反映された自己評価には至っていない。月に1回の職員会議での話し合いはあるが、報告程度にとどまっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	3ヶ月に1回、併設の小規模多機能事業所と合同で開催し、状況説明や報告等を行っている。運営につながるような意見はまだ出ていないが、地域密着型サービスの意義や様子を知ってもらい、徐々に多くの意見が得られるよう、次回からは地域包括支援センターの職員の参加を得て積極的な会議の運営を検討している。
重点項目	個別には定期報告や面会時に家族の意見や意向を聞くようにしている。家族の参加しやすい行事を設け、多くの家族に参加してもらっているが、運営に反映するような意見等は出ていない。ただ、把握した家族の思いや意向については、ホーム側の対応についてきちんと説明するよう努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	毎日の日課としている散歩の継続や地域行事、清掃活動の積極的な参加により地域住民との交流が多くもたれている。また、併設の小規模多機能事業所を開放し、ボランティア受け入れや地域交流の場とし連携できる土台作りをされている。認知症サポーター養成講座を開催される等、専門知識の地域への還元にも努められている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がホームにおいても、地域の中で普通の当たり前の生活が送れるように、安心と幸せを目指す理念が、開設当初から掲げられている。その理念は、入居者や家族に説明され、ホーム内に掲示され、入居者一人ひとりの自立支援のケアを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念について共有できており、入居者の日々のケアにおいて、「自立支援」を目指したプランを基に、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は、職員と一緒に毎日散歩に行き、近隣の人と挨拶を交わしたり、自治会の掃除や祭りなどの行事に参加し、地域の一員として交流の機会を持っている。また、同法人の施設を使って婦人会の舞踊の発表会やカラオケなど、地域の人やボランティアとの交流会を定期的で開催したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価については、職員会議で取り上げ、その意義についての理解は確認している。自己評価については、管理者と計画作成担当者として作成しており、職員は目を通したが、意見は少なく、現場の意見の反映には至っていない。		自己評価について、職員に対しても、少しずつ取り組んでもらうことで、日々のケアの振り返りや課題の気付きとなることを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1回の頻度で、運営推進会議を開催し、自治会長・民生委員・入居者・家族・計画作成担当者・施設長を参加者として意見交換している。内容はホームでの様子や行事の報告や連絡が多くなっているが、更なる意見交換を目指して、次回の8月から地域包括支援センターからの参加を予定している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法の改定等に伴う、運営上の課題について、市の担当者と直接面談をしたり、電話での意見交換を行ったりして、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族に対して、介護記録やケアプラン・献立表・行事やレクリエーション表などをまとめて送付している。また、買い物については立替を行い、レシートや領収証等も同封している。月に1回は全家族の面会があり、その際、職員や計画作成担当者から、日頃の暮らしぶりを報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の日頃の様子は書類の郵送や面会時に知らせているが、それに対する意見は特に伺っていない。家族などの率直な意見を前向きに活かす姿勢はあるが、不満や苦情は聞いていない。</p>		<p>家族等が意見や思いを表出できる機会として、家族間での交流が図れる家族会や、意見箱の設置などを検討され、多くの意見交換や苦情など受け入れる体制を示されてはどうか？</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職は比較的多いが、入居者へのダメージが最小限になるように、異動する職員と採用した職員との引継ぎを1~2週間かけて行うようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に対し毎年順番に認知症介護実践者研修を受講させている。その受講者は職員会議で伝達研修も実施されている。また、感染症や防災対応などについても、職員会議時に事業所内研修として実施されている。さらに今年は、介護支援専門員の受験対策も管理者自らが取り組まれる予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市グループホーム連絡会に参加し、同業者と交流する機会を通じて、意見交換や思いの共有を行い、更にサービスの質の向上に励んでいる。また、実践者研修などの実習も受け入れ、認知症ケアについての意見交換が来ている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みの際には、管理者が自宅を訪問し、生活状況や希望を伺ったり、場に慣れるように見学にも来てもらったりして、少しでも入居者にとってホームが居心地の良い場所となるよう、相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者と共に生活しているという意識を持ち、少しでも出来る事を増やしたり維持出来るよう、「自立支援」に取り組んでいる。レクリエーションや生活支援の中で、喜怒哀楽を共にして、入居者から教えてもらったり、支えあったりする関係が築けるよう支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者からホームへの要望はほとんどない。日々のケアの中の会話や仕草などから、入居者自身の思いや希望を汲み取るようにしている。また、家族には面会時などに希望を聞くように心掛けている。</p>		<p>認知症の人の思いや希望を察知する際、上手く言葉に表出できないことが多いため、見逃しやすい。また、家族の希望もないはずはない、と捉え、積極的に職員全員で、本人の視点になって話し合われる機会を増やされることを期待する。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者毎に、主担当職員が決められており、日々の支援の中での気づきや課題などを、ケアプラン会議に提案され、職員全員で検討して、介護計画を作成している。家族からの意見がある時は、それを取り入れて検討し作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のケアプラン会議で、前月の計画の実施状況やその効果を評価し、職員全員で介護計画を見直している。また、会議までに見直しが必要な場合は、適宜行っている。介護計画に対する家族の意見はほとんどなく、職員での見直しが繰り返されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームに隣接した小規模多機能ホームでのホールや舞台装置を、地域の婦人会やボランティアグループに開放して、舞踊やカラオケなどの交流に活かしており、ホームの入居者や職員も参加して楽しんでいる。また、協力医療機関への通院介助が職員により行われている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医の継続も可能であるが、協力医に変更すると職員による通院介助や2週間に1回の往診が受けれることから、全ての入居者は協力医療機関がかかりつけ医になっている。また、緊急時などは電話などでの相談や入院医療機関への連携も図れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームに看護職員が不在であることから、重度化したり終末期の対応は難しく、早期からかかりつけ医や家族との相談を行い、入院や施設への対応を検討している。		今後、入院や施設対応が困難になる可能性があることや、老衰で入院対象でない終末期への対応など、入居者や家族の希望を出来るだけ聞きながら、安心して介護が受けられるよう、ホームの今後の体制や方針を明確にされることを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応や言葉かけがないように、管理者を始め職員全員で注意して取り組んでいる。また、個人情報の重要性に対しては、個人情報保護のガイドライン(厚生労働省発行)を基に話し合い、注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしながらの「自立支援」が実施できるように取り組んでいる。また、生活のリズムを大切に、日中の活動性を高めるように個別性を活かした支援を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は調理師が作成し、買い物は新型インフルエンザの流行により中断しているが、他の食事の準備から片付けまでを入居者と一緒に行っている。食事は職員と一緒に摂り、さりげない支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本としながら、入居者の希望や状況に合わせて、声掛けして実施している。それぞれの思いに合わせた対応を行い、入浴が少しでも楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者自身の生活歴や、それぞれの状態に合わせて、出来ることを一緒にして役割を持ってもらったり、趣味の時間を楽しんだりしている。また、洗濯物を干したり、畳んだり、散歩や外出をしたりと気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「日中は活動的に過ごす」というホームの方針に従い、毎朝夕の散歩で近くの神社へのお参りや近隣保育園児との交流会・小規模多機能ホームへの舞踊見学など、戸外に出るための支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年の11月に、連続して3件入居者が行方不明になり、入居者の安全の面からやむを得ず、一時的に常時施錠している。家族の苦情もなく、現在は開錠する予定はない。		入居者の自由と安全の確保の面からも、難しい課題ではあるが、ケアの原点に返って身体拘束をしない介護に向けて、職員のケアの力をつけ、短時間の開錠など出来ることから取り組んで欲しい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>3ヶ月に1回の頻度で、入居者と職員が一緒になって消防訓練に取り組まれている。その際職員一人ひとりが主体的に実施出来るよう工夫され、消火・通報・避難訓練を行っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>調理師が中心になって献立を考え、栄養バランスのとれた食事摂取を実施している。入居者の摂取状況は健康記録に記録出来ている。また、水分摂取については量の測定までは行っていないが、使用する容器は一律で、1回の量はおよそ把握しており、飲み残しがないように声掛けを行い注意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>平屋建てのホームで、周りには植木や芝生は植えられ、落ち着いた雰囲気がある。リビングには畳みのスペースもあり、吹き抜けの天井には、トップライト(天窗)を設け、自然の光が暖かく降り注いでいる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、入居者の馴染みの箆笥や仏壇、テーブルやテレビが持ち込まれ、家族の写真や人形が飾られており、少しでも安心して過ごせるように家族とも相談をしている。</p>		

 は、重点項目。